

【大田原】へき地医療などの課題を抱える県北地域で「医学を基礎とするまちづくり」(MBT)構想を推進しようと、中田原の那須赤十字病院はこのほど、東京の医療系ベンチャーMBTリンク、北関東総合警備保障(北綜警)との3者協定を締結した。

同構想を基にして医療水準の向上や関係機関の連携強化を図り、住民の

電気使用量で健康確認

健康増進や安心安全に暮らせる地域社会の実現を目指すのが狙い。

3者は家庭の電気使用データから健康状態を把握する「ライフスタイルセンシング」を活用した事業の検討や実証実験などを通し、独居高齢者ら

への迅速で効率的なヘルスケアサービスの展開に取り組む。北綜警は電力センサーといった機器の設置や保守、緊急時の駆け付けなどの役割を想定している。

この日、同病院で行われた締結式には井上晃男

那須日赤、医療ベンチャー、北綜警 MBT構想推進へ協定

大田原

協定書を手にする(左から)青木社長、井上院長、梅田社長



院長、MBTリンクの梅田智広社長、北綜警の青木靖典社長が出席し、協定書を交わした。

井上院長は「県北が地域医療のモデルになることを期待したい」、梅田社長は「住み慣れた場所で安心して暮らせる未来を具現化できるよう精いっぱい尽くす」と話した。(草場和樹、白石貴久)